

## パリ協定の実施指針の採択

- パリ協定は、全ての国が排出削減に向けた目標を設定し、世界全体で進捗状況を確認しながら、更に野心を高めることを目指す仕組み。2020年から始まるパリ協定の円滑な運用に向けて、COP24において実施指針を採択することが極めて重要。
- 我が国が重視する「NDC」(4条)、「市場メカニズム」(6条)、「透明性枠組み」(13条)等について、堅固な実施指針を策定することで、透明性の高い・実効性のある仕組みの確立を目指す。
- パリ協定やCOP決定の合意内容を踏まえ、先進国と途上国の機械的な対立(2分論)ではなく、可能な限り共通のルールが適用される仕組みを目指す。

## 主要議題

- NDC(4条)  
NDCの進捗状況を客観的に把握するために必要な事前情報の提出を促すとともに、NDCのアカウンティングに必要な原則を確保する。
- 市場メカニズム(6条)  
相当の調整など二重計上を防止し、排出削減の国際移転を厳格に計上できる仕組みとする。
- 適応(7条)  
適応報告書の記載事項や提出方法を、各国の事情に応じて柔軟に選択できる仕組みとする。
- 資金(9条)  
幅広い資金源を気候資金としてカウントし、提出する情報の内容や方法についても、できるだけ各国の裁量が確保できる仕組みとする。
- 透明性枠組み(13条)  
すべての国に共通の報告事項を設定した上で、能力が不足している途上国には時限的な柔軟性を付与する等により、報告内容を継続的に改善可能な仕組みとする。途上国による、必要とし受領した支援に関する情報提供を促す。
- グローバル・ストックテイク(14条)  
パリ協定に従い、長期目標の進捗状況を検討することを明確にし、十分な実施体制を確保することにより、世界全体の取組強化を促す有益な情報提供が可能な仕組みとする。

## タラノア対話: 政治フェーズ

- 本年10月に公表されたIPCC1.5度特別報告書をはじめとした最新の科学的知見が示すように、2度目標の達成と1.5度目標の追求のためには、世界全体が排出削減の取組を強化する必要がある。タラノア対話は各国の有益な取組事例を共有し、世界全体の野心向上を促すために重要。我が国は、パリ協定で合意した長期目標達成に向けて、タラノア対話に最大限貢献する。
- 我が国は、タラノア対話のポータルサイトの開設、各種関連イベントの開催、サブミッションの提出等、積極的にタラノア対話に取り組んでいる。パリ協定の長期目標達成に向け、優れた技術、ノウハウなどの強みを活かしながら、従来の延長線上にないイノベーションを創出し、「環境と成長の好循環」を実現する世界のモデルを提供する。

## それ以外のハイレベル・セグメント

- ハイレベル・セグメントについては、グローバル・クライメート・アクション、資金に関する隔年閣僚対話、2020年以前の取組についての会合等が実施される予定。我が国は、パリ協定実施指針の策定に積極的に貢献し、以下のような観点からパリ協定の実施に貢献していく。
  - ✓ 全ての国が、パリ協定を円滑に運用できるよう積極的に国際協力(排出削減の透明性を支えるキャパシティ・ビルディング、二国間クレジット制度(JCM)等を通じた技術移転)等を行っていく。
  - ✓ 国内の排出削減については、従来の延長線上にないイノベーションを創出し、「環境と成長の好循環」を実現するための取組を行っていく。